

事業所名

えがいの広場（放課後等デイサービス）

支援プログラム

作成日

8

年

4

月

16

日

法人（事業所）理念		誰もがありのままにその人らしく、その子らしく安心して笑顔で暮らせる地域社会の実現に利用児童一人ひとりのその子らしさや育ち、地域での暮らしの支援を行うことを目的とします。										
支援方針		私たちは対象になる方々に寄り添った伴走型の支援をします。 1、その子の個性を理解する 2、失敗しても批判されない、責められない安心できる環境 3、子どもの言いたいことを理解する努力 4、子どもにわかるように伝える工夫をする										
営業時間		10	時	00	分から	18	時	00	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容												
本人支援	健康・生活	友達同士のやり取りを楽しめるよう支援員が援助し、放課後にお子さんが安心して過ごせる場所を提供します。持ち物の管理や遊具の用意と片付けなどを「教えてもらって覚える」のではなく、遊びやゲームを通じて「楽しく学べる」よう支援します。複数の部屋を使い、お子さんが自分のことに集中しやすい環境を作り、タイムタイマーや絵や文字のスケジュール表などを使って予定をわかりやすく伝えます。										
	運動・感覚	個別の活動や集団活動の時間で、本人の有する能力を引き出せるようリズム運動や文字をなぞったり書いたりすること、道具を使った制作活動などを通じて、目や手、体を一緒に動かす練習をします。										
	認知・行動	具体的なものや絵カードを利用したり、活動の終わりの時間を知らせる時計にシールを貼って示すなど、時間を意識して自ら行動することを支援します。個別の部屋を用意して視覚刺激の少ない環境を作ったり、イヤーマフを使用するなど、必要に応じて個々の感覚特性に配慮した環境を設定します。										
	言語コミュニケーション	自分のしたいことや手伝って欲しいことなどを適切な場面で伝えられるよう支援します。一人ひとりの特徴やニーズに応じて、絵カードや身振り、文字を使ったコミュニケーション手段を活用します。集団活動の中で「入れて」「貸して」と言って相手の返事を待つ、「いいよ」と応じる、「使っている」「あとで」と断るといった友達とのやりとりがスムーズにできるよう支援員が見本を見せたり助言援助をします。										
	人間関係社会性	グループ活動や集団活動の時間を通して順番に行う「ルールを守る」「友達と協力する」「失敗や負け」を受け入れること他者と一緒に生活していくために必要なスキルを身につけ友達との関わり方に関して支援員が見本を見せたり助言援助をします。										
家族支援		面談や連絡帳による日々のやりとりや必要に応じて電話連絡等で連携することにより家族の不安や心配を取り除き、いつでも相談できる環境を整えます。				移行支援		家族の理解をとり、必要に応じて学校でのお子さんの様子を見学したり、学校の先生とお子さんの様子や支援方針について情報共有したりします。				
地域支援・地域連携		お子さんの通っている他の関係機関と情報共有するなどして連携を図ります。				職員の質の向上		研修及び各部門会議の内容等を毎月の会議やミーティングなどで全員に伝え、研修資料を基に勉強会を行います。				
主な行事等		4月お花見 7月プール遊び 8月交流会 9月秋まつり、敬老会(さざんか園慰問) 10月ハロウィーンパーティー、遠足 11月運動会、12月クリスマス会(さざんか園慰問) 1月もちつき大会 3月遠足(親子参加)、卒業式 ・毎月…書道教室・子ども食堂など										